

2020年1月NHK中央放送番組審議会

1月のNHK中央放送番組審議会は、20日(月)、NHK放送センターにおいて、16人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「フェイク・バスターズ」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、2月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

- | | |
|------|--|
| 委員長 | 大島 まり (東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授) |
| 副委員長 | 國土 典宏 (国立国際医療研究センター理事長) |
| 委員 | 秋田 正紀 (株式会社松屋代表取締役社長執行役員) |
| | 石戸奈々子 (NPO法人CANVAS理事長) |
| | 石堂 真弘 (全国農業協同組合中央会常務理事) |
| | 今井 忠 (NPO法人東京都自閉症協会理事長) |
| | 大川 順子 (日本航空(株)特別理事) |
| | 尾上 紫 (日本舞踊家、女優) |
| | 木村たま代 (主婦連合会消費者事務局長) |
| | 栗原 友 (料理家) |
| | 柴田 岳 (読売新聞東京本社常務取締役論説委員長) |
| | 立野 純二 (朝日新聞社論説主幹代理) |
| | 出口 治明 (ライフネット生命保険(株)創業者／立命館アジア太平洋大学学長) |
| | 西原浩一郎 (全日本金属産業労働組合協議会顧問) |
| | 花岡 伸和 (一般社団法人日本パラ陸上競技連盟副理事長) |
| | 福井 烈 (公益財団法人日本テニス協会専務理事) |

(主な発言)

<「フェイク・バスターズ」(総合 12月19日(木)放送)について>

- フェイクニュースについて数々の事例を挙げながら、当事者たちが証言していることで信ぴょう性が高まり、分かりやすかった。情報を疑うことの必要性や、被害者、加害者になったときの対処法も紹介しており、自分のこととして考えることができた。テレビという媒体を通じて、インターネット上の情報をうのみにしやすい

子どもたちや若い世代に向けても注意喚起していくことは必要だ。今後も継続して放送してほしい。誰もが加害者や被害者になる恐れがあるという現実を伝えていくことが重要だと感じた。ディープフェイクは恐ろしく、多くの人々にとって見抜く方法もまだ分からないのではないか。フェイク情報に関する事例は今後もさまざまなものが出てくると思うので、個人の対応では限界があると感じた。対処の仕方も含めて伝え続けてほしい。

- 当事者たちのインタビューは、具体的で説得力があり、自分のこととして捉えることができた。インターネット上の医療情報サイトで信頼できるものは1割程度しかないという紹介には驚いた。一方で、デマ拡散に対応するIT専門の弁護士も増えてきているという情報はよかったが、具体的な弁護士費用も提示してほしかった。12月22日(日)にBSプレミアムでプレミアムドラマ「歪(ゆが)んだ波紋」の最終回が放送されていたが、似たようなテーマの番組を意識して制作したのか気になった。

(NHK側)

弁護士費用は個々の事例によるので、番組では紹介しなかった。この問題に関する社会の関心が高まっているなかで、プレミアムドラマ「歪(ゆが)んだ波紋」と、同時期の放送となった。

- 最近の事例を分かりやすく取り上げた番組だった。インターネット上で、これほどひどい中傷があふれているのかと驚くとともに、多くの攻撃者たちが自分の身が危うくなると前言を翻して謝罪してくる様子にも、人間の裏の顔を見たようで恐怖を覚えた。いつ自分の身に起こるか分からない問題なので、解決策を番組で提示していたのは非常に参考になった。自分だけで考えていても分からない情報もあったので、番組を通じて継続的に最新の情報を伝えてほしい。現代ではインターネットを通じてさまざまな情報を得られるが、最終的には人と人とのつながりに救われ、正しい方向に導かれることもある。今後も人間同士のコミュニケーションの重要性を発信していくとよいのではないか。
- 単発の番組としては、やや物足りないように感じたが、今後シリーズ展開していく予定があるのか知りたい。被害にあった時の対処法などをチェックリストで繰り返し見せる演出は効果的でよかった。当事者や番組に出演していたアドバイザーたちのことばは、本質を捉えたものが多く、有意義だった。特に、あおり運転で誤って犯罪者に仕立て上げられた人の「ここまで人を攻撃できる人たちに対しての恐怖

でした」ということばは印象的だった。司会を務めたタレントの方は、ふだんから独自のニュース解説動画をインターネット上で配信し、刺激的に見せるために情報を一方向から断定的に論じ、バラエティーの要素も盛り込みながら伝えているというイメージがある。今回のように情報を正しく扱うことをテーマにした番組への出演は、本人の取り組みと相反するよう感じた。司会に起用した意図を知りたい。またこの種の番組は繰り返し放送することに意味があると思うので、継続して放送してほしい。

(NHK側)

司会の方は、インターネット上で動画コンテンツなども配信し、特に若い世代から支持されている。今回の番組は、当事者や専門家の話から自身も学んでいくという演出上のねらいもあった。また、視聴者からも継続して放送してほしいという要望は頂いている。

- インターネットを使って調べていると、簡単に自分の知りたい情報に近づけるが、その情報が誤っているかもしれないというのは非常に怖いと思った。特に医療情報を見るときは、いつ、誰によって発信され、根拠は何かを確認することが重要だと言われているが、番組でも同じようなことを伝えており、重要な点を抑えた内容だった。インターネット上の検索には落とし穴があると改めて感じる番組で、「エコーチェンバー」という現象も恐ろしい。特に、医療情報を検索する際に注意すべきことなどは、人々の関心も高いと思うので、今後も取り上げてほしい。
- 情報を収集したり発信したりする際に注意すべきことが幅広く取り上げられており、これから生きていくために必須となるICTリテラシーを網羅的に学ぶことができるよい番組だった。チェックリストを提示し、押さえるべき点を分かりやすく整理していた点もよかった。繰り返し放送し、一つ一つの内容を深掘りしていきながらシリーズ化してもよい内容だと思った。番組タイトルにある「フェイク」ということばから主に政治的な問題として注目されるようになったフェイクニュースに関する番組だと思った。実際の番組内容は、情報の扱い方やソーシャルメディア上で課題となっている炎上について取り上げていたが、AIを使ったディープフェイクなどについての内容が少なかった点は残念だった。悪意を持った戦略的な偽の情報とどう向き合うのか、権力側が意図的に偽の情報を発信した場合にどう判断したらよいのかなどの新しい課題についても、今後取り上げてほしい。
- 技術が進歩すると必ず弊害も出てくるということが分かる番組だった。また、

インターネットの使用に関して、人類は初心者だという話も印象に残った。昔から根も葉もないうわさを立てる人はいるが、インターネットという発信力の強いツールを使うことで、誰もが容易に自分の知識や正しさを主張することができてしまうことが恐ろしいと思った。人に必要なのはオフラインの世界で、顔と顔をつきあわせながら共感し、承認し合えるような人間関係をふだんから持つことなのではないか。当事者の証言は生々しく、自分のこととして捉えるには効果的だった。また、それぞれの事象を漫画で再現していた点も分かりやすかった。

- テクノロジーの進歩がもたらしている最新のリスクなども含め多角的に分かりやすく伝えていた。注意すべき観点をきちんと示しながら、インターネット社会にどう向き合うべきか気付きを与えてくれた番組で、NHKらしい有意義な内容だった。当事者本人が直接語っており、説得力を高めていた。専門家が解説する際に使っていた専門用語をもう少し丁寧に説明してもよいのではないかと思ったが、全体としては分かりやすかった。社会にインターネットが浸透する中で、常日頃から個人情報保護の問題などのリスクを感じていたので、興味を持って見ることができた。今後、プロバイダーやIT関連企業が偽の情報に対してどのように向き合おうとしているのかや国の方針などを取り上げてほしい。

(NHK側)

大手IT企業の動向も取材したが、動画のディープフェイク対策などにも本腰を入れて取り組んでいる。「クローズアップ現代+」や「NHKスペシャル」などの番組でも同様のテーマをしばしば取り上げているが、今後「フェイク・バスターズ」で放送する場合は、より身近な問題に引きつけた切り口や演出を心がけたい。今回はできるだけ多くの人たちに、インターネット上の偽の情報の問題を身近に感じてもらうため、偽の情報が拡散された場合の対処法や医療情報を検索する際の注意点などを取り上げた。

- インターネットを使っていると、偽の情報ではないかと不安に思うことがあるので、この問題は引き続き取り上げてほしい。今回は実際の被害者や情報を取り扱う専門家が出演することで、身近な問題として感じられるようにした点がよかった。一方で、十分説得力のある内容であるにもかかわらず、恐怖心をあおるようなナレーションはやや過剰な演出のように感じた。

(NHK側)

少しでも幅広い世代に見てもらいたいという思いから、今回は声優の方にナレーションをお願いした。アナウンサーのナレーションとは、雰囲気違ったかもしれない。

- 事例を再現する際に漫画を使って説明していたが、真面目なテーマを扱っているだけに、少女漫画的なイラストと語気の強いドラマチックなナレーションには違和感を覚えた。また、問題を解決するためのバスターズとして紹介された人の中には、被害者と捉えたほうがよい人もいたのではないか。明確な解決策を提示できていなかったように思う。今後は子どもたちにも危機感が伝わるような事例を取り上げてほしい。
- 問題意識のはっきりとした学びの多い番組だった。全体的によいという前提で、気になった点を挙げる。まず、番組の司会者にはもう少し落ち着いた人をキャスティングしてもよかったのではないか。また、漫画を使った再現映像やナレーションについてもアナウンサーが淡々と伝えたほうが訴求力があつたように思う。本当に恐ろしいのは、細部に至るまで作り込まれた偽の情報が社会を変えていってしまうことだ。今後続編を制作する場合は、そのような巧妙化している偽の情報についても取り上げてほしい。
- 漫画を使った演出が気になった。なぜその方法を使用したのか。

(NHK側)

通常の記事番組とは異なるアプローチを試みた。今回は過去に起きた出来事を再現する際に漫画を用いたが、漫画を使うとセリフを一人称で書けるというメリットがある。当事者の経験を表現する方法としては、訴求力が高いと考えた。

- 分かりやすい内容だった。世代によって伝え方はさまざまな手法があると思うので、工夫を重ねてほしい。漫画を使った再現シーンには違和感を覚えたものの、制作意図を伺うと今後は漫画を用いた情報提供が増えていくのではないかと感じた。今回は、白黒の漫画という点や大人が多く見る番組に漫画が出てきた点が気になった。さらに改良を重ね、見やすい演出を検討してほしい。また、問題を抱えた時の解決策として弁護士に相談することを挙げていたが、一般の人にとっては非常にハードルが高いので、相談しやすい窓口等も紹介するとよかったのではないか。また、日本で偽の情報に対してどのような対策が行われているかやインターネット事業者

に求められることなども扱ってもよかったように思う。

- とてもよい啓発番組だった。インターネットの世界では、ニュースの消費者が発信者にもなっているということが、世間であまり認識されていないように思う。そこから生まれるさまざまなひずみを取り上げた今回のような番組は大変有意義だ。もし、続編を作るのであれば、被害者を取り上げるだけでなく、少数の悪意を持った人が偽の情報を作り、その情報を見た悪意のない大多数の人が拡散し、善意の攻撃者が生まれていくというメカニズムを解明するような番組を制作してほしい。
- インターネットの恩恵に預かる一方で、偽の情報が拡散していく恐ろしさを十分に伝えた番組だった。デジタル社会の課題を突きつけられ、対策を打つ必要性を感じた。また、人間関係を醸成していくことの重要性についても改めて考えさせられた。番組の最後に出演者からのメッセージが紹介されたが、時間が短く、読みきれなかった点は残念だった。
- 取り上げる事例がやや多すぎたように思う。放送した時間を考えると、誰に向けて番組を制作しているのか分かりづらい内容だった。また、「次の一手」と紹介するところは早すぎて、理解できない部分があった。全体的に危機感を伝えるだけで終わってしまった印象があり、残念だった。恐怖心を植え付けるだけでは、視聴者のための番組とはいえないように思う。

(NHK側)

30代から40代の人たちに見てもらうことを想定して制作したが、放送後の反響はもう少し上の世代からのものも多かった。インターネットの炎上の被害者や加害者は、若い世代だけでなく、中高年の方も多いと言われている。次回制作する際は、どのような視聴者層を想定した演出にするべきかを検討して制作したい。

<放送番組一般について>

- 1月1日(水)のNHKスペシャル 2020巻頭言「10 Years After 未来への分岐点」(総合 後 9:00~10:15)を見た。地球温暖化や貧困の問題、AIや生命工学などによるテクノロジーの進化などあらゆる課題の現状や危機的

な状況をNHKらしい視点で分かりやすく伝えていた。課題に対して、戦略的に立ち向かおうとする若者たちの姿も描かれており、勇気づけられた。グローバルな視点を踏まえ、日本も直面するであろう課題について、元日にメッセージ性の高い番組を放送したことは公共放送としての役割を果たす上で、意義があると感じた。

- NHKスペシャル 2020巻頭言「10Years After」を見た。年始めに多くの人たちが視聴する時間帯に、このようなテーマの番組を制作した点はさすがだと思った。
- NHKスペシャル 2020巻頭言「10Years After 未来への分岐点」を見た。気候変動の問題はようやく日本でも重要視されてきている。ホットハウス・アース現象や高潮のシミュレーションCGなどとても分かりやすく説明しており、誰が見ても自分のこととして考えなければならないという緊張感や切迫感が伝わる番組だった。また、水の問題、貧困、格差、健康問題、医療問題など、SDGsが根源でつながっていることを示す事例を取り上げていた。また番組ではAIへの期待とともに、AIを軍事利用する恐ろしさについても実感できる内容となったのではないかと感じた。気候変動に関する日本の先進的な取り組み事例が出てこなかった点は残念だった。
- 1月11日(土)のNHKスペシャル「認知症の第一人者が認知症になった」を見た。本人や家族に対して長期にわたる密着取材を行っており、自分のこととして考えながら見ることができた。認知症になってからの景色はどんな景色かという質問に対して、認知症になった医師の長谷川和夫さんが「変わらない。普通だ。前と同じ景色だよ」と言っていたシーンが印象的で、多くのものを失っても自分は自分であるというアイデンティティーを示唆していると感じた。一方で、長谷川さんがデイサービスであまり楽しそうでない表情をしていた映像が気になった。
- 日頃から「暮らし☆解説」をよく見ている。暮らしに密着したテーマを取り上げ、社会的に問題になっている事柄を分かりやすく解説しており、公共的な意味合いの強い、よい番組だ。
- 12月3日(火)の「再び注目 夜間中学」では、80歳を超えた人や外国人、不登校の人、健康上の問題でしっかりと学校に通えなかった人など、さまざまな人たちが夜間中学に通っていることが紹介されていた。生徒たちがお互いを認め合う中で、居場所ができたという話は感銘を受けるよい内容だった。

- 1月9日(木)の「地域の資源で持続可能なまちづくり」も、木くずでの発電やウシの糞尿で水素を作る話などは興味深かった。今後もさまざまなテーマを分かりやすく伝えていってほしい。
- 12月28日(土)の「ドラえもん50周年 みんなみんなかなえてくれる♪ ひみつ道具と科学」(総合 後 7:30~8:43)を見た。50年前に描かれた未来の道具がこんなにも実現しているのかということが分かり、夢を描けば実現するというワクワク感を得られる番組だった。一方で、今の子どもたちは明るい未来を描けているのかと考えさせられた。これからの50年後を描く番組を制作し、番組を見た世代から次の新しい技術開発を担う子どもたちが生まれるとよいと思う。
- 「ドラえもん50周年 みんなみんなかなえてくれる♪ ひみつ道具と科学」を見た。小学生のころにこんなことをしたい、あんなことをしたいと思っていた自分を振り返ることができ、とてもうれしくなる番組だった。
- 12月31日(火)の第70回NHK紅白歌合戦「夢を歌おう」(総合 後 7:15~11:45)を見た。会場での歌唱と中継、企画ものとのバランスは毎年いろいろと論評されており、人それぞれ好みは分かれると思うが、今回は、騒がしい内容が多く気になった。また、曲によってメッセージ性を持った演出を行っていたが、メッセージについての説明がなく、視聴者に理解しにくいものもあった。「NHK紅白歌合戦」はさまざまな考え方の人が見ており、政治的・社会的主張が違う人や純粋に娯楽として楽しみたいという人もいるので、特定のメッセージに戸惑う視聴者もいるのではないか。
- 「夢を歌おう」という番組テーマで進行していたが、最後のところで急にテーマが変わったような印象を受け、違和感を覚えた。

(NHK側)

「NHK紅白歌合戦」はエンターテインメント性の高いステージ番組なので、どのような説明や紹介を入れるのがよいかについては今後も検討していきたい。

- 「NHK紅白歌合戦」は個々の出演者がよかったこともあると思うが、「大みそかはやはり紅白だ」という習慣に支えられている面も大きいのではないか。今年は、NHKの番組を振り返っているような演出が続き、この一年の人々の生活や暮らしの振り返りはできていたのだろうかと思った。原点に戻り、大みそかにふさわしい

内容を考えてほしい。

- 「NHK紅白歌合戦」の根本は歌だと思う。もっとシンプルに歌手が自分の本当に歌いたい歌を披露してもよいのではないか。一年を振り返り未来を志向するという大きな役割もあると思うので、例えば2部構成で前半は一年の出来事を伝え、後半は歌のみの演出にするというやり方もあるのではないか。

(NHK側)

視聴者からもさまざまな意見を頂いている。一つ一つの意見を参考にしながら、今後の制作に生かしたい。

- 「NHK紅白歌合戦」を総合テレビとBS4Kで比較しながら見た。同じ番組で比較すると、違いがよく分かり、4Kはこんなにもきれいに映るのかと感動した。ただ、BS4Kではカメラマンの背中がたびたび映り込んでおり残念だった。

(NHK側)

頂いた意見は今後の参考にさせていただく。

- 「NHK紅白歌合戦」は国民的イベントなので、今後もいろいろと盛り上げてほしい。

- 1月1日(水)の「京の都を守る霊山 祈りの道～絶景の参詣道をゆく～」(総合前 7:20～8:59)を見た。とても穏やかな番組で、隠れた名所も紹介しており、新年にふさわしい内容だった。余計な情報がなく、ありのままの京都を楽しむことができた。今後も続けてほしい。

- 1月1日(水)のCOOL JAPAN 新春特集「世界が驚いたニッポンのNEWS」と1月2日(木)の「新春TV放談2020」(総合後 10:00～11:15)を見た。例年放送している番組だと思うが、新しいものの見方や視点を常に与えてくれるので、毎年楽しみにしている。「新春TV放談2020」では、動画サイトの話題も積極的に取り上げており、放送業界が何を考えているのかが伝わる内容だった。民放の弘中綾香アナウンサーが出演していた点も新鮮で、興味深く見ることができた。

- 1月1日(水)の東京ミラクル 第4集「老舗ワンダーランド 佐藤健・物々交換の旅」(総合後 10:15～11:04)を見た。俳優の佐藤健さんが案内役を務めていた

が、適任だったと思う。商いが永らえてきた秘けつを漢字1文字でどう表すかというアンケートでは、1位の「信」、2位には「誠」に加えて、「変」という字が入っていたことに感銘を受けた。変わることが重要だと改めて認識した。

- 1月10日(金)の「まるごとSTAR WARS～いよいよ完結スペシャル～」(総合 後10:00～10:48)を見た。これまでの物語のつながりを把握することができ、非常によかった。STAR WARSに関する番組をNHKで放送したことに驚いた。
- 1月11日(土)の「しろくまピース20歳～家族と歩んだ“いのち”の軌跡～」(総合 後7:30～8:15)を見た。20年という区切りで、動物の歩みをたどる番組を制作することは大変すばらしい。かわいいだけではなく、飼育員さんたちのいろいろな苦しみや悩み、努力が伝わる番組で、大変心に残った。感動的なドキュメンタリーを今後も見せてほしい。
- 「逆転人生」は働く人の関心を引きつけ、示唆に富む見応えのあるテーマが続いており、評価している。1月13日(月)の「注目の着ぐるみ工場 “社員の輝き”で大躍進」を見た。この会社の事例は、そのまま普遍的に広げられるものではないが、逆転に至る過程と逆転を可能にしたその時々判断の中に企業社会全体が考えなければいけない視点がいくつか含まれていた。個々の「逆転人生」だけではなく日本全体の「逆転人生」にもつながるような番組で、学ぶことが多かった。
- 1月15日(水)の歴史秘話ヒストリア「がんばれ前畑 誕生！女性初の金メダル」を見た。前畑秀子選手を取り巻く当時の状況やその後の人生を知ることができる内容だった。メダルを期待される選手には、計り知れない責任感やプレッシャーがあることや当時の女性アスリートの大変さを実感できた。また、過度に応援することで選手を追い詰めてしまうことにもなりかねないと考えさせられた。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、違った角度で選手や競技を見ることができ、興味の幅が広がる内容だった。時代の新旧や活躍の有無に関わらず、アスリートの生の声をもっと届けることで、人々の東京オリンピック・パラリンピックへの関心も高まると思った。
- 1月15日(水)と16日(木)のクローズアップ現代+「シリーズ 検証・かんぼ問題」を見た。視聴者から長く待たれた特集だったと思う。報道機関としてのNHKの面目躍如の内容で、示唆に富んだ労作だった。かんぼ問題の被害の実態について、これまで光が当てられてこなかった部分に何があるのか、日本郵政の調査に

どんな問題があるのかについて、元取締役が証言しており大変内容の濃い番組だった。一方で、当時の総務事務次官が情報漏えいを行った件について、言及がなかった点は気になった。番組では、民営化そのものに問題があるという意見と、民営化が中途半端だから問題だという意見を主に取り上げていたが、官民の癒着がどのような影響をもたらしたのかという点も大きな論点の一つだ。当時の総務事務次官による情報漏えいに全く言及しないのは、いまだに続くかんぽ問題という大きなパズルの小さなピースが欠けているような印象を受けた。全体的には、多くの関係者からの取材の蓄積が多分に発揮されており、充実した内容だった。

- 12月30日(月)のスペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」(総合 後 9:00～10:13)を見た。BS4K, BS8Kでも同時放送された番組で、地上波での視聴だったが、十分に素晴らしい映像だった。現在の上海の様子を思い起こしながら、100年前の世界を堪能することができた。物語なので難しい面もあると思うが、番組中に現在の上海との対比の要素も入れると、より興味のわく内容になったのではないか。
- 1月19日(日)の大河ドラマ「麒麟(きりん)がくる(1)「光秀、西へ」(総合 後 8:00～9:14)を見た。「大河ドラマ」は歴史上の人物を主人公に、誰もが知っているゴールに向けてどのように描かれるかというところに楽しみがある。今回の大河ドラマは、さまざまな世代の人が見たくなるような工夫がされていたように思う。色合いも明るく、テロップも大きく見やすかった。視聴率に左右されずに制作してほしい。今後の展開を楽しみにしている。
- 大河ドラマ「麒麟(きりん)がくる」を見た。主人公の青い着物はよく映えていてよかったが、あれほど長旅をしているのにいつまでも着物がきれいなままなことに違和感を覚えた。また、声がこもっているような印象を受けた。
- 連続テレビ小説「スカーレット」を見ている。朝の貴重な15分を使って見るには、物語のペースが遅すぎるように思う。これから仕事をする、家事をすると思っているときに、拍子抜けするような内容の時もあるので、演出については検討を続けてほしい。
- 12月28日(土)のプレミアムドラマ怪談牡丹燈籠 異聞「お露と新三郎」(BSプレミアム 後 10:00～11:29)、29日(日)の特集ドラマ「黒蜥蜴～BLACK LIZARD～」(BSプレミアム 後 9:00～10:59)、30日(月)のスペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」(総合 後 9:00～10:13)を見た。NHK

が制作している最近のドラマは実験的な切り口で、よい感性のものが多い。

- 12月26日(木)、27日(金)の「テキシコー」(Eテレ 前9:50~10:00)を見た。プログラミング的思考とは何かを提示している番組だ。秀逸な見せ方で、センスもよい。現実社会の中でプログラミング的思考がどう使われているのか、使うとどうなるのかを示しており、4月から学校教育の現場で学んでいくことの意義を感じさせる内容だ。番組のなかで、自分で考える時間を必ず設けている点も評価できる。「Why! ?プログラミング」やそのほかの関連番組などと連動させ、子どもたちが考え方を学び、実践し、社会の中で生かしていくという一連の流れを作れるとよいのではないか。
- 1月1日(水)のごちそうDJ 幸せいっぱい!おせちスペシャル「きみの願いにNEOおせち!」(Eテレ 前7:40~8:00)を見た。よい内容で勉強になった。ゲストが最後に発言した「この料理はばかうまい」という表現が気になった。品のない発言で終わった点は残念だった。
- 1月2日(木)の「即位の礼 晩さん会 密着・ホテルマンの1か月」(BSプレミアム 後9:00~10:30)を見た。食材を作る農家、料理人、接客する人、進行をつかさどる人など、最高品質のサービスを提供するすべての人たちの思いと実力を知ることができ、日本人として誇りを持った視聴者も多いのではないか。接客だけでなく、あらゆる面において相手を思いやることが、日本のおもてなしの極みであることがしっかりと伝わり、うれしく思った。日本人ならではの強みを生かした誠意ある対応が日本のサービスをさらに際立たせていくだろう。今後もこのような番組を放送していくと、日本のサービスもますます高度化していくのではないか。
- 1月18日(土)のスーパープレミアム「感動!おもてなしスペシャル」を見た。人気の観光スポットや料理などの紹介は多かったが、客を迎えるあるじが行うしつらえや所作、客に心地よさを与える行動といった日本の文化につながる本質的なおもてなしがあまり紹介されておらず、残念だった。人をおもんばかりの日本人のよさが番組後半で紹介されていたものの、番組タイトルから期待していたほどの内容ではなかった。
- 相模原市の障害者殺傷事件の初公判が1月8日(水)に行われた。「NHK NEWS WEB」では、裁判の進捗状況に合わせて、新しい情報が逐一伝えられていた。状況が刻々と分かるのは非常によかった。

- 「首都圏ネットワーク」の「ストップ詐欺被害！私はだまされない」を見た。川柳を使って、詐欺被害に遭わないための極意を継続して伝えている点が素晴らしいが、そろそろ違う切り口で伝えてもよいのではないかと思う。
- 2020 応援ソング「パプリカ」は全国の子どもたちに受け入れられ社会現象にもなっているが、プロデュース力が素晴らしいと思う。英語版も制作され、国境を越え、世界中のみんながつながるというこれからの共生社会を見せることができたのではないか。子どもたちが大きくなったときに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの思い出を「パプリカ」とともに思い出すという共通体験を提供できているように思う。

(NHK側)

前回の審議会で頂いた農林水産省元事務次官の裁判に関する質問にお答えする。「ニュースウオッチ9」では、裁判のニュースを伝える際、被告人の発言などについて声優に再現してもらうことがある。社会的に関心の高い事件や事故の裁判では、法定内で被告人が何をどのように語ったかが大きなニュースになるため、語り口など法廷内の状況を具体的に伝えることも検討する。その際、演出が過剰になり客観性が損なわれることにならないように留意しているが、今回頂いた意見は現場に伝えており、今後も視聴者が違和感を覚えることがないように努めていきたい。

NHK編成局
番組審議会事務局